

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	36° 59′ 19″ 138° 33′ 52″	橋梁ID
4788 青倉橋 (フリガナ) アオクラバシ	117 117号	長野県下水内郡栄村大字北信字峯				36.98861,138.56444
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
長野県 15 飯山	2020.10.26	その他	有	一般道	一次	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

株式会社 協同測量社 浅野 拓郎

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	腐食	主桁02,主桁04,主桁05,主桁06		
	横桁	Ⅲ	腐食	対傾構01,横構04		
	床版	Ⅱ	漏水・遊離石灰,床版ひびわれ	床版05,床版07,床版04,床版01,床版17		
下部構造	Ⅱ	ひびわれ,漏水・遊離石灰	橋台01,橋脚02			
支承部	Ⅱ	支承部の機能障害,漏水・滞水	支承0101,支承0201,支承0301,支承0401,支承0501,支承0601,支承0102,支承0402,支承0602			
その他	Ⅲ	腐食、変形・欠損など	防護柵02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	主桁端部に伸縮装置からの漏水に起因すると思われる著しい腐食等が確認される。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1983	63	15
橋梁形式		
鋼鈑桁橋(非合成)、PCI桁、逆T式橋台2基、ラーメン橋脚(RC)2基		

終点



起点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	1	舗装	Ⅱ	舗装01	舗装の異常	1	2	舗装	Ⅱ	舗装01	舗装の異常
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	3	舗装	Ⅱ	舗装02	舗装の異常	1	4	高欄・防護柵	Ⅲ	防護柵02	腐食、変形・欠損など
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	5	高欄・防護柵	Ⅲ	防護柵02	腐食、変形・欠損など	1	6	高欄・防護柵	Ⅲ	防護柵02	腐食、変形・欠損など
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	7	高欄・防護柵	Ⅲ	防護柵02	腐食、変形・欠損など	1	8	地覆・中央分離帯	I	地覆01	変形・欠損など
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	9	地覆・中央分離帯	I	地覆03	変形・欠損など	1	10	排水装置	Ⅱ	排水装置0201	土砂詰まり
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	11	排水装置	Ⅱ	排水装置0202	土砂詰まり	1	12	排水装置	Ⅱ	排水装置0203	土砂詰まり
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	13	主桁	Ⅲ	主桁02	腐食	1	14	主桁	Ⅲ	主桁04	腐食
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	15	主桁	Ⅲ	主桁05	腐食	1	16	主桁	Ⅲ	主桁06	腐食
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	17	主桁	Ⅲ	主桁02	腐食	1	18	主桁	Ⅲ	主桁04	腐食
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	19	主桁	Ⅲ	主桁04	腐食	1	20	主桁	Ⅲ	主桁04	腐食
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	21	主桁	Ⅲ	主桁05	腐食	1	22	主桁	Ⅲ	主桁06	腐食
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	23	主桁	Ⅱ	主桁01	亀裂	1	24	主桁	Ⅱ	主桁01	亀裂
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	25	主桁	Ⅱ	主桁01	亀裂	1	26	主桁	Ⅱ	主桁01	亀裂
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	27	主桁	Ⅱ	主桁02	亀裂	1	28	主桁	Ⅱ	主桁02	亀裂
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	29	主桁	Ⅱ	主桁02	亀裂	1	30	主桁	Ⅱ	主桁03	亀裂
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	31	横桁・縦桁・対傾構・横構	Ⅲ	対傾構01	腐食	1	32	横桁・縦桁・対傾構・横構	Ⅲ	対傾構01	腐食
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	33	横桁・縦桁・対傾構・横構	Ⅲ	横構04	腐食	1	34	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版05	漏水・遊離石灰
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	35	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版07	漏水・遊離石灰	1	36	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版04	床版ひびわれ
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	37	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版01	床版ひびわれ	1	38	橋台・橋脚	Ⅱ	橋台01	ひびわれ
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	39	橋台・橋脚	Ⅱ	橋脚02	ひびわれ	1	40	橋台・橋脚	Ⅱ	橋脚02	ひびわれ
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	41	橋台・橋脚	Ⅱ	橋脚02	ひびわれ	1	42	橋台・橋脚	I	橋台01	剥離・鉄筋露出
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	43	橋台・橋脚	I	橋台01	剥離・鉄筋露出	1	44	橋台・橋脚	Ⅱ	橋台01	漏水・遊離石灰
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	45	橋台・橋脚	Ⅱ	橋台01	漏水・遊離石灰	1	46	橋台・橋脚	Ⅱ	橋台01	漏水・遊離石灰
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	47	橋台・橋脚	Ⅱ	橋台01	漏水・遊離石灰	1	48	橋台・橋脚	Ⅱ	橋台01	漏水・遊離石灰
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	49	支承部	Ⅱ	支承0101	支承部の機能障害	1	50	支承部	Ⅱ	支承0101	支承部の機能障害
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	51	支承部	Ⅱ	支承0101	支承部の機能障害	1	52	支承部	Ⅱ	支承0201	支承部の機能障害
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	53	支承部	Ⅱ	支承0301	支承部の機能障害	1	54	支承部	Ⅱ	支承0401	支承部の機能障害
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	55	支承部	Ⅱ	支承0501	支承部の機能障害	1	56	支承部	Ⅱ	支承0501	支承部の機能障害
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	57	支承部	Ⅱ	支承0601	支承部の機能障害	1	58	支承部	Ⅰ	支承0301	省座モルタルの変形・欠損
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	59	支承部	Ⅰ	支承0401	省座モルタルの変形・欠損	1	60	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	61	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水	1	62	支承部	Ⅱ	支承0402	漏水・滞水
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
1	63	支承部	Ⅱ	支承0602	漏水・滞水	1	64	その他		点検施設0102	
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
2	1	高欄・防護柵	Ⅲ	防護柵02	腐食、変形・欠損など	2	2	主桁	I	主桁16	剥離・鉄筋露出
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
2	3	主桁	I	主桁16	剥離・鉄筋露出	2	4	主桁	I	主桁34	剥離・鉄筋露出
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
2	5	主桁	I	PC定着部01～34	定着部の異常	2	6	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版01	漏水・遊離石灰
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
2	7	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版17	漏水・遊離石灰	2	8	橋台・橋脚	I	橋脚02	ひびわれ
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
2	9	橋台・橋脚	I	橋脚02	剥離・鉄筋露出	2	10	支承部	Ⅱ	支承0102	支承部の機能障害
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
2	11	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水	3	1	主桁	I	主桁01	剥離・鉄筋露出
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
3	2	床版(張出部含む)	Ⅱ	床版17	漏水・遊離石灰	3	3	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
3	4	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水	3	5	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水
											

状況写真(損傷状況)

様式(その2)

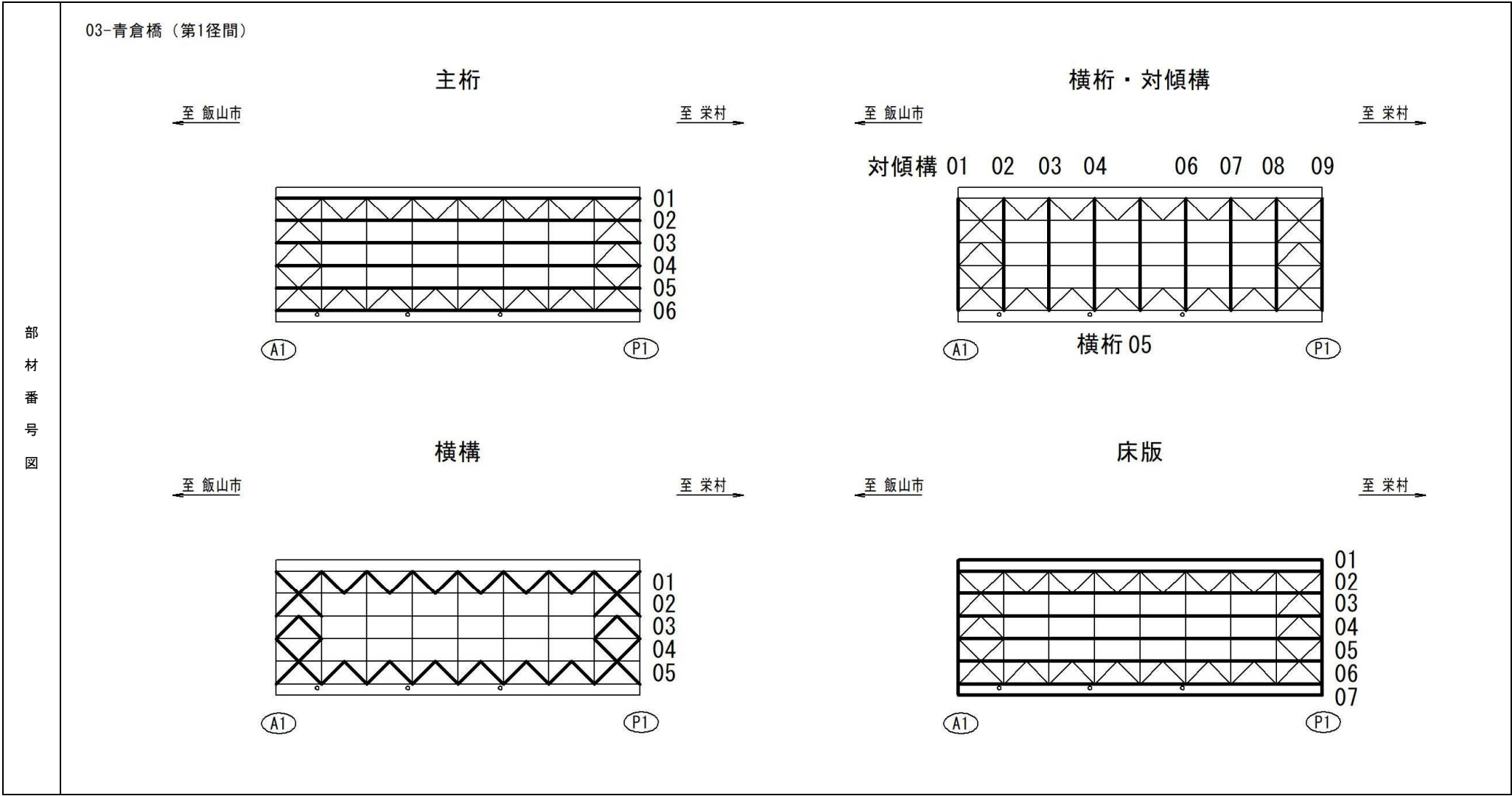
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載すること。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

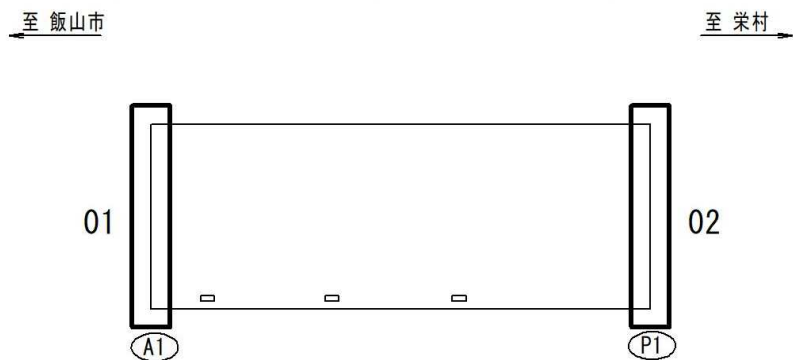
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類
3	6	支承部	Ⅱ	支承0102	漏水・滞水						
											
径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類	径間番号	写真No	部材名	判定区分	位置	変状の種類

部 材 番 号 図	径 間 番 号	1
-----------	---------	---

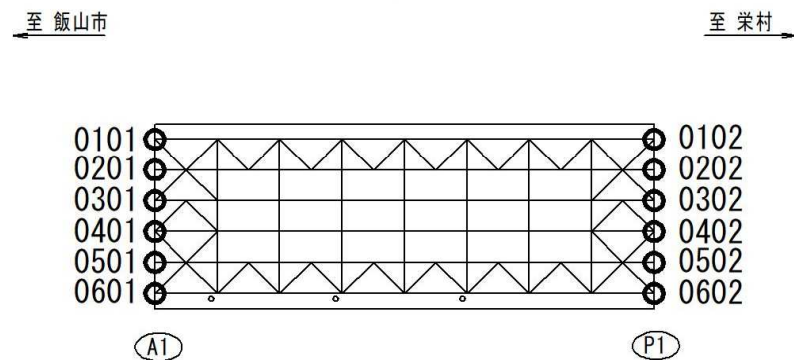
フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	調書更新年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				



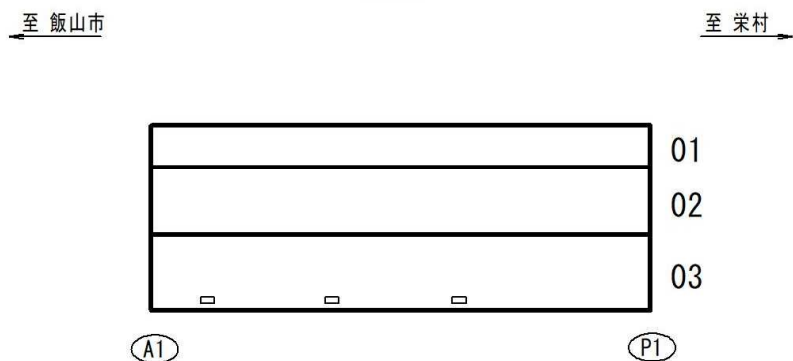
下部構造(橋台、橋脚、基礎)・伸縮装置



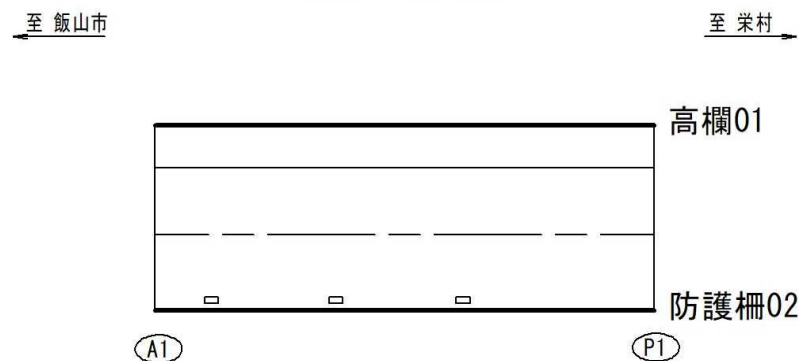
支承部



舗装



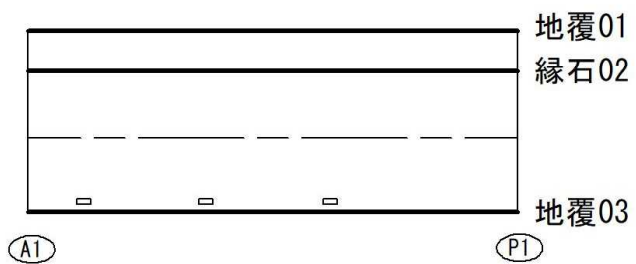
高欄・防護柵



地覆・縁石

← 至 飯山市

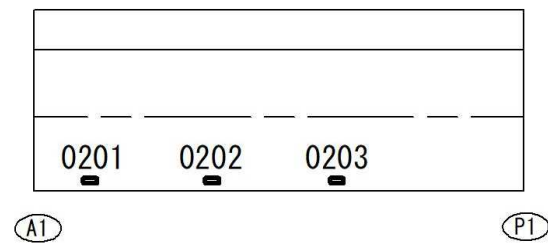
至 栄村 →



排水施設

← 至 飯山市

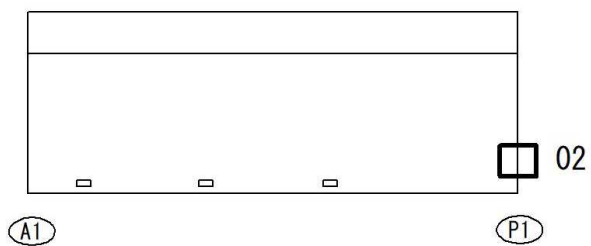
至 栄村 →



点検施設

← 至 飯山市

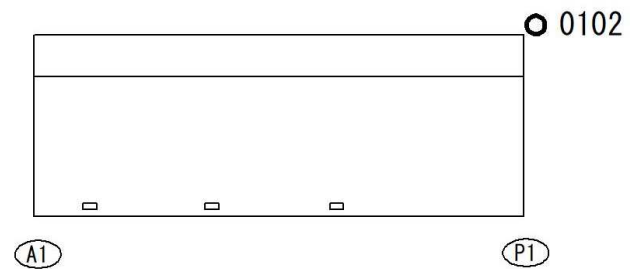
至 栄村 →



照明施設

← 至 飯山市

至 栄村 →



橋梁点検チェックシート		区 間 番 号	1
-------------	--	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号	管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目		変状の種類	該当部材 無し	未点検	判定区分 評価基準 (該当する項目に○を付けて下さい)				部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考
					判定区分Ⅰ	判定区分Ⅱ	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ					
1	路面・路上	舗装	舗装の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・舗装に軽微な損傷が発生している(ひびわれ幅5mm未満)。	・舗装が著しく損傷している(ひびわれ幅5mm以上)。 ・舗装に穴や異常なへこみがある。	・舗装表面に特異な損傷が見られるが、コンクリート床版の土砂化や鋼床版の亀裂は確認されない。	・舗装の陥没やセメント分の噴出値が見られ、舗装直下の床版上面のコンクリートの土砂化の発生や、鋼床版の疲労亀裂による過度のたわみの発生が懸念される。	舗装01,舗装02	1,2,3		
2		伸縮装置	遊間の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・左右の遊間が極端に異なる、または遊間が直角方向にずれている。		・遊間が異常に広く伸縮継手の部の面が完全に離れている。または、桁とバラベツがあるいは、桁同士が接触している(接触した痕跡がある)。					
3			路面の凹凸	部材無し	未点検	・損傷なし ・横軸方向の凹凸が生じているが段差量は小さい(20mm未満)。		・横軸方向の凹凸が生じており段差量が大きい(20mm以上)。	・著しい凹凸があり、自転車やオートバイが転倒するなど第三者へ障害を及ぼす懸念がある。				
4		高欄・防護欄	腐食 変形・欠損など	部材無し	未点検	・損傷なし ・部材が局部的に腐食・変形している。または、その一部が欠損している。		・部材が局部的に著しく腐食・変形している。または、その一部が著しく欠損している。	・支柱部、レール部に著しい損傷があり、耐力の喪失につながる場合で第三者被害が想定される。	防護欄02	4,5,6,7		
5		地覆・中央分離帯	変形・欠損など	部材無し	未点検	・損傷なし ・部材が局部的に変形している。または、その一部が欠損している。		・部材が局部的に著しく変形している。または、その一部が著しく欠損している。	・著しい変形・欠損により、第三者被害が想定される。	地覆01,地覆03	8,9		
6		排水装置	土砂詰まり	部材無し	未点検	・損傷なし	・排水樹に土砂詰まりがある。			排水装置0201,排水装置0202,排水装置0203	10,11,12		
7	上部工	主桁※ (ゲルバー部、格点部、コンクリート埋込部含む)	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または弧がりのある発錆箇所が複数ある。	・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。 ・支点部などの応力集中部位、ゲルバー桁の受け梁、トラス横やアーチ横における斜材、支柱、吊材、弦材などの主部材に明らかな断面欠損や著しい板厚減少が生じている。	主桁02,主桁04,主桁05,主桁06	13,14,15,16,17,18,19,20,21,22		
8			亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし	・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。	・主桁のフランジからウェブに進展した明確な亀裂がある。 ・ゲルバー桁の受け梁に亀裂が発生している。 ・アーチ横やトラス横の支柱・吊材・弦材などに明らかな亀裂が発生している。 ・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。	主桁01,主桁02,主桁03	23,24,25,26,27,28,29,30		
9			ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。(一群あたり本数の5%未満である。)		・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。(一群あたり本数の5%以上である。) ・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。					
10		横桁※ 縦桁 対傾構 横構	破断	部材無し	未点検	・損傷なし			・破断している。				
11			腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または弧がりのある発錆箇所が複数ある。 ・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。		対傾構01,横構04	31,32,33		
12			亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし ・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。	・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。					
13			ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。(一群あたり本数の5%未満である。)	・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。(一群あたり本数の5%以上である。)	・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。					
14			破断	部材無し	未点検	・損傷なし		・破断している。					

橋梁点検チェックシート	径 間 番 号	1
-------------	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号	管理者名	長野県	橋梁番号	4788.0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	該当部材 無し	未点検	判定区分 評価基準 (該当する項目に○を付けて下さい)				判定区分 IV	部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考
							判定区分 I	判定区分 II	判定区分 III							
15	鋼	床版※	腐食	部材無し	未点検	-損傷なし -局部的に錆が発生している。	-全体的に錆が生じている。または拡がりのある発錆箇所が複数ある。	-局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	-全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。							
16			亀裂	部材無し	未点検	-損傷なし	-断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい箇所が確認できる。 -亀裂が生じているものの、縦状でないか、縦状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	-線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない並膜われが生じている。	-亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。							
17			ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	-損傷なし -ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。(一群あたり本数の5%未満である。)		-ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。(一群あたり本数の5%以上である。) -F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。								
18			破断	部材無し	未点検	-損傷なし			-破断している。							
19	上部工	主桁※ (ゲルバー部、PC定着部含む)	ひびわれ	部材無し	未点検	-損傷なし -ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 -ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 -ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	-ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 -ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 -ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	-ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	-顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋する可能性がある。							
20			剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	-損傷なし -剥離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	-鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	-鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破断している。	-第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発生している。							
21			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	-損傷なし	-ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰はほとんどなし)。 -ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほとんどなし)	-ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆汁の混入が認められる。								
22			定着部の異常	部材無し	未点検	-損傷なし -PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認められる。または、ケーブルの定着部に損傷が認められる。		-PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷がある。または、ケーブルの定着部に著しい損傷がある。	-耐力低下の他、第三者被害が想定される定着部の異常がある。							
23		横桁※ (PC定着部含む) 縦桁	ひびわれ	部材無し	未点検	-損傷なし -ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 -ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 -ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	-ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 -ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 -ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	-ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	-顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋する可能性がある。							
24			剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	-損傷なし -剥離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	-鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	-鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破断している。	-第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発生している。							
25			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	-損傷なし	-ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰はほとんどなし)。 -ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほとんどなし)	-ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆汁の混入が認められる。								
26			定着部の異常	部材無し	未点検	-損傷なし -PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認められる。または、ケーブルの定着部に損傷が認められる。		-PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷がある。または、ケーブルの定着部に著しい損傷がある。	-耐力低下の他、第三者被害が想定される定着部の異常がある。							
27		床版※ (張出部、PC定着部含む)	剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	-損傷なし -剥離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	-鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	-鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破断している。	-第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発生している。							
28			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	-損傷なし	-ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰はほとんどなし)。 -ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほとんどなし)	-ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆汁の混入が認められる。		床版05.床版07	34.35					
29			抜け落ち	部材無し	未点検	-損傷なし			-コンクリート塊の抜け落ちがある。							
30			床版ひびわれ	部材無し	未点検	-ひびわれなし、もしくは、ひびわれが確認できない。	-[漏水・遊離石灰が無い場合] -〔方向〕→方向〔間隔〕問わない〔幅〕0.2mm以下 -〔方向〕格子状〔間隔〕0.5～0.2m〔幅〕0.2mm以下 -[漏水・遊離石灰がある場合] -〔方向〕→方向または格子状〔間隔〕問わない〔幅〕0.2mm以下	-[漏水・遊離石灰が無い場合]部分的な角落ち有 -〔方向〕→方向〔間隔〕問わない〔幅〕0.2mm以上 -〔方向〕格子状〔間隔〕0.2m以下〔幅〕0.2mm以上 -[漏水・遊離石灰がある場合]部分的な角落ち有 -〔方向〕→方向または格子状〔間隔〕問わない〔幅〕0.2mm以上	-ある範囲で一様性を失っており、床版の抜け落ちが懸念される。 -顕著な漏水を伴う格子状のひびわれが密に発生している。または、漏水を伴うひびわれがあり、明らかなきや剥離が確認される。	床版04.床版01	36.37					
31			定着部の異常	部材無し	未点検	-損傷なし -PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認められる。または、ケーブルの定着部に損傷が認められる。		-PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷がある。または、ケーブルの定着部に著しい損傷がある。	-耐力低下の他、第三者被害が想定される定着部の異常がある。							

橋梁点検チェックシート		径 間 番 号	1
-------------	--	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	判定区分 評価基準（該当する項目に○を付けて下さい）						部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考				
				該当部材 無し	未点検	判定区分Ⅰ		判定区分Ⅱ		判定区分Ⅲ		判定区分Ⅳ							
32	下部工	鋼	橋脚※	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。		・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発錆箇所が複数ある。		・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。		・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。						
33				亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし		・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。		・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。		・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。						
34				ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。（一群あたり本数の5%未満である。）				・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。（一群あたり本数の5%以上である。） ・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。								
35				破断	部材無し	未点検	・損傷なし						・破断している。						
36	コンクリート	橋台※ 橋脚※	ひびわれ	部材無し	未点検	・損傷なし ・ひびわれ幅小（RC：0.2mm未満、PC：0.1mm未満）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。 ・ひびわれ幅中（RC：0.3mm未満、PC：0.2mm未満）、間隔大（最小間隔0.5m以上）。 ・ひびわれ幅中（RC：0.3mm未満、PC：0.2mm未満）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。 ・ひびわれ幅大（RC：0.3mm以上、PC：0.2mm以上）、間隔大（最小間隔0.5m以上）。		・ひびわれ幅小（RC：0.2mm未満、PC：0.1mm未満）。 ・ひびわれ幅中（RC：0.3mm未満、PC：0.2mm未満）、間隔小（最小間隔0.5m以上）。 ・ひびわれ幅中（RC：0.3mm未満、PC：0.2mm未満）、間隔大（最小間隔0.5m未満）。 ・ひびわれ幅大（RC：0.3mm以上、PC：0.2mm以上）、間隔大（最小間隔0.5m以上）。		・ひびわれ幅大（RC：0.3mm以上、PC：0.2mm以上）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。		・顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋する可能性がある。		橋台01,橋脚02	38,39,40,41				
37			剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剥離のみが生じている。（鉄筋の露出は局部的）		・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。		・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破断している。		・第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発生している。		橋台01	42,43				
38			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし		・ひびわれから漏水が生じている（錆汁や遊離石灰はほとんどなし）。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。（錆汁はほとんどなし）		・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰（例えば、つらら状）が生じている。または、漏水に著しい泥や錆汁の混入が認められる。				橋台01	44,45,46,47,48				
39	基礎※			沈下・移動・傾斜	部材無し	未点検	・損傷なし				・支点が沈下している。 ・下部工が移動・傾斜している。								
40				洗掘	部材無し	未点検	・損傷なし				・基礎が流水のため洗掘されている。		・基礎が流水のため著しく洗掘されている。						
41	支承部※			支承の機能障害	部材無し	未点検	・損傷なし		・腐食・土砂詰まり等、支承の機能が損なわれている。		・腐食・土砂詰まり等、支承の機能が著しく阻害されている。		・支承の沈下等により大きな路面段差や桁の脱落等、危険な状態になる可能性がある。 ・支承の機能が喪失しており、落橋に至る可能性がある。		支承0101・支承0201・支承0301・支承0401	49,50,51,52,53,54,55,56,57			
42				音座モルタルの変形・欠損	部材無し	未点検	・損傷なし ・音座モルタルの一部が欠損している。		・音座モルタルが著しく欠損している。						支承0301・支承0401	58,59			
43				漏水・滞水	部材無し	未点検	・損傷なし		・伸縮装置、排水隅取付位置などから漏水し、支承付近に滞水している。						支承0102・支承0402・支承0602	60,61,62,63			
44	全体			異常な音・振動 異常なたわみ	—	未点検	・損傷なし				・異常な音あるいは振動や揺れが確認できる。 ・主桁等に異常なたわみが確認できる。								
45	その他	落橋防止装置 補修・補強材 遮音施設 照明・標識装置 点検施設 添架物 袖擁壁 など	損傷を発見した場合 ・損傷状況 ・損傷写真 を記録	[損傷状況]	点検施設：腐食-Ⅲ								点検施設0	64					
46				[損傷状況]															
47				[損傷状況]															
48				[損傷状況]															
49				[損傷状況]															
50				[損傷状況]															
51				[損傷状況]															

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

損傷図作成メモ用紙

03-青倉橋（第1径間）

上部工

主桁・横桁・床版・対傾構・横構

至 飯山市

至 栄村

※ 上記特記以外の損傷
床版 (06) 床版ひびわれ-Ⅱ, 漏水・遊離石灰-Ⅱ
主桁 (01, 02, 03, 04, 05, 06), 横桁・対傾構 (01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08), 横構 (01, 02, 03, 04) 防食機能の劣化 (写-376 (10/21))

上部工

支承部・排水装置

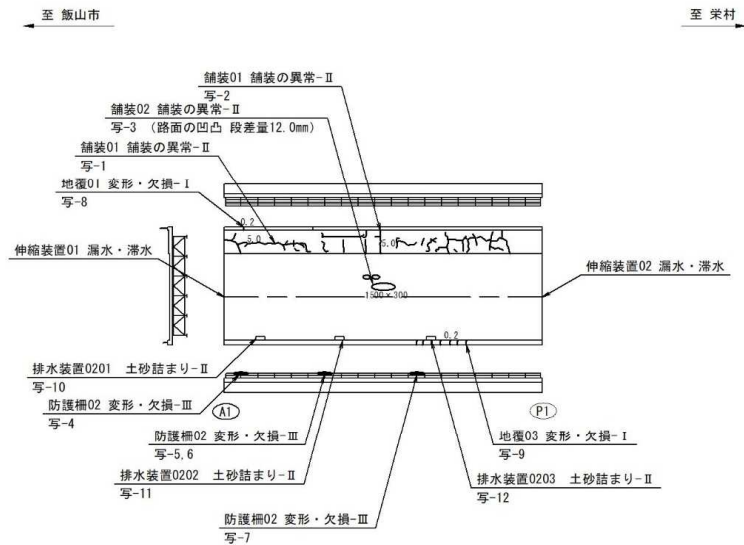
至 飯山市

至 栄村

健全性の診断

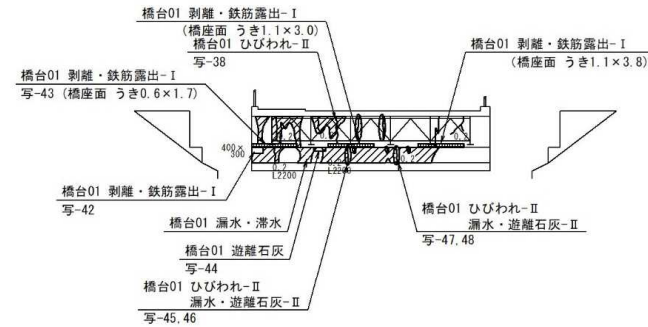
部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
		判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	Ⅲ	腐食	主桁02,主桁04,主桁05,主桁06	—		
	横桁	Ⅲ	Ⅲ	腐食	対傾構01,横構04	—		
	床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰,床版ひびわれ	床版05,床版07,床版04,床版01	—		
下部構造		Ⅱ	Ⅱ	ひびわれ,漏水・遊離石灰	橋台01,橋脚02	—		
支承部		Ⅱ	Ⅱ	支承部の機能障害,漏水・滞水	301,支承0401,支承0501,支承0601,支承0602	—		
その他		Ⅲ	Ⅱ	腐食、変形・欠損など	防護柵02	—		

橋面工



※ 上記特記以外の損傷
防護柵 (01, 02) 防食機能の劣化

A 1 橋台

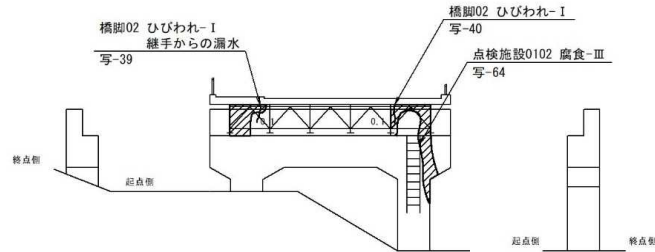


損傷図の凡例

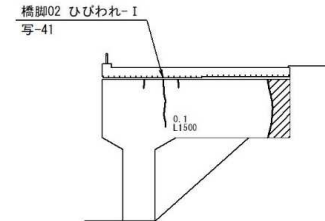
変状の種類	表 示	変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰		う き	
剥 離		漏 水		腐 食	
鉄筋露出		その他			

部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
		判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	Ⅲ	腐食	主桁02,主桁04,主桁05,主桁06	—		
	横桁	Ⅲ	Ⅲ	腐食	対傾構01,横構04	—		
	床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰,床版ひびわれ	床版05,床版07,床版04,床版01	—		
下部構造		Ⅱ	Ⅱ	ひびわれ,漏水・遊離石灰	橋台01,橋脚02	—		
支承部		Ⅱ	Ⅱ	支承部の機能障害,漏水・滞水	301,支承0401,支承0501,支承0601,支承0602	—		
その他		Ⅲ	Ⅱ	腐食、変形・欠損など	防護柵02	—		

P 1 橋脚
起点側



P 1 橋脚
終点側



損傷図の凡例

変状の種類	表 示	変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰		う き	
剥 離		漏 水		腐 食	
鉄筋露出		その他			

健全性の診断	部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
			判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
	上部構造	主桁	Ⅲ	Ⅲ	腐食	主桁02,主桁04,主桁05,主桁06	—		
		横桁	Ⅲ	Ⅲ	腐食	対傾構01,横構04	—		
		床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰,床版ひびわれ	床版05,床版07,床版04,床版01	—		
	下部構造		Ⅱ	Ⅱ	ひびわれ,漏水・遊離石灰	橋台01,橋脚02	—		
	支承部		Ⅱ	Ⅱ	支承部の機能障害,漏水・滞水	301,支承0401,支承0501,支承0601,支承0701	—		
	その他		Ⅲ	Ⅱ	腐食、変形・欠損など	防護柵02	—		

部 材 番 号 図	径 間 番 号	2
-----------	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	調書更新年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

部 材 番 号 図	03-青倉橋（第2径間）			
	主桁		床版	
	← 飯山市 → 栄村 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 P1 P2		← 飯山市 → 栄村 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 32 P1 P2	

PC定着部

至 飯山市

至 栄村

横締め41

縦締め

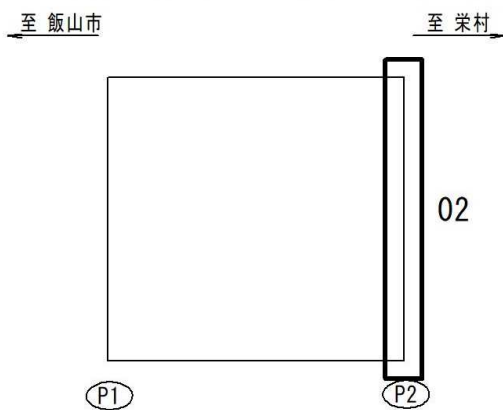
	01	02
	03	04
	05	06
	07	08
	09	10
	11	12
	13	14
	15	16
	17	18
	19	20
	21	22
	23	24
	25	26
	27	28
	29	30
	31	32
	33	34

(P1)

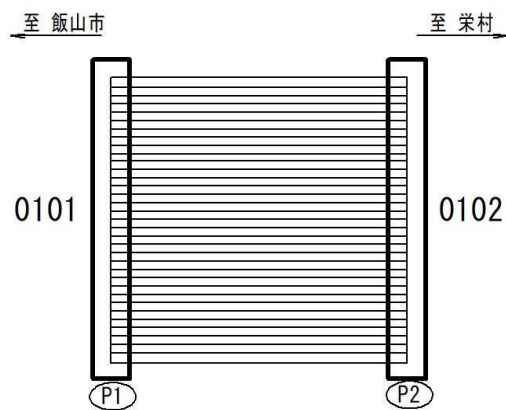
横締め42

(P2)

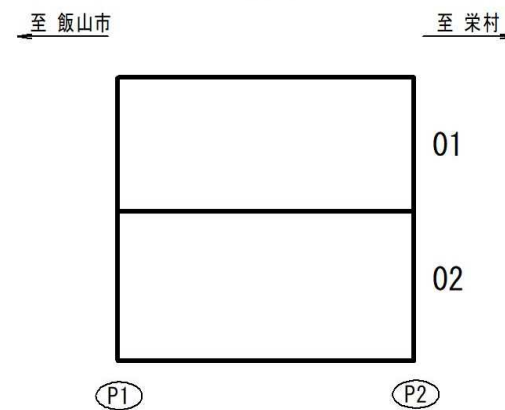
下部構造(橋台、基礎)・伸縮装置



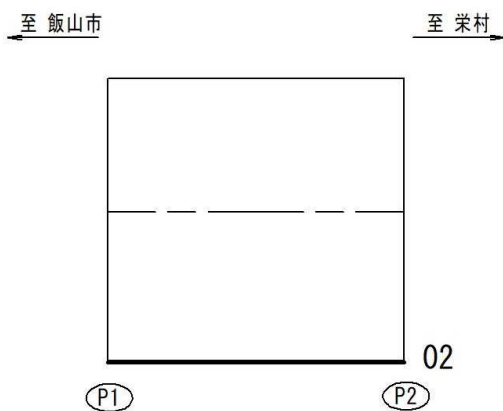
支承部



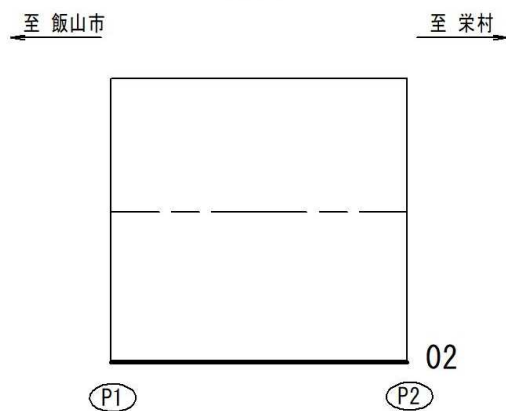
舗装



防護柵



地覆



橋梁点検チェックシート	径間番号	2
-------------	------	---

フリガナ 橋梁名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号	管理者名	長野県	橋梁番号	4788.0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	判定区分 評価基準（該当する項目に○を付けて下さい）				部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考		
				該当部材 無し	未点検	判定区分Ⅰ	判定区分Ⅱ	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ						
1	路面・路上		舗装	舗装の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・舗装に軽微な損傷が発生している（ひびわれ幅5mm未満）。	・舗装が著しく損傷している（ひびわれ幅5mm以上）。 ・舗装に穴や異常なへこみがある。	・舗装表面に特異な損傷が見られるが、コンクリート床版の土砂化や鋼床版の亀裂は確認されない。	・舗装の陥没やセメント分の噴出痕が見られ、舗装直下の床版上面のコンクリートの土砂化の発生や、鋼床版の疲労亀裂による過度のたわみの発生が懸念される。					
2			伸縮装置	遊間の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・左右の遊間が極端に異なる、または遊間が直角方向にずれている。		・遊間が異常に広く伸縮継手の鋼の歯が完全に離れている。または、桁とバラベツトあるいは、桁同士が接触している（接触した痕跡がある）。						
3				路面の凹凸	部材無し	未点検	・損傷なし ・横軸方向の凹凸が生じているが段差量は小さい（20mm未満）。		・横軸方向の凹凸が生じており段差量が大きい（20mm以上）。	・著しい凹凸があり、自転車やオートバイが転倒するなど第三者へ障害を及ぼす懸念がある。					
4			高欄・防護柵	腐食 変形・欠損など	部材無し	未点検	・損傷なし ・部材が局部的に腐食・変形している。または、その一部が欠損している。	・部材が局部的に著しく腐食・変形している。または、その一部が著しく欠損している。	・支柱部、レール部に著しい損傷があり、耐力の喪失につながる場合で第三者被害が想定される。	防護柵02	1				
5			地覆・中央分離帯	変形・欠損など	部材無し	未点検	・損傷なし ・部材が局部的に変形している。または、その一部が欠損している。	・部材が局部的に著しく変形している。または、その一部が著しく欠損している。	・著しい変形・欠損により、第三者被害が想定される。						
6			排水装置	土砂詰まり	部材無し	未点検	・損傷なし	・排水側に土砂詰まりがある。							
7	上部工	鋼	主桁※ （ゲルバー一部、格点部、コンクリート埋込部含む）	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発錆箇所が複数ある。	・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。 ・支点部などの応力集中部位、ゲルバー桁の受け梁、トラス横やアーチ横における斜材、支柱、吊材、弦材などの主部材に明らかな断面欠損や著しい板厚減少が生じている。					
8				亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし	・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。	・主桁のフランジからウェブに進展した明確な亀裂がある。 ・ゲルバー桁の受け梁に亀裂が発生している。 ・アーチ横やトラス横の支柱・吊材・弦材などに明らかな亀裂が発生している。 ・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。					
9				ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。（一群あたり本数の5%未満である。）		・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。（一群あたり本数の5%以上である。） ・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。						
10				破断	部材無し	未点検	・損傷なし			・破断している。					
11				横桁※ 縦桁 対傾構 横構	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発錆箇所が複数ある。 ・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。					
12		亀裂	部材無し		未点検	・損傷なし ・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。	・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。							
13		ゆるみ・脱落	部材無し		未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。（一群あたり本数の5%未満である。）	・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。（一群あたり本数の5%以上である。）	・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。							
14				破断	部材無し	未点検	・損傷なし		・破断している。						

橋梁点検チェックシート	径 間 番 号	2
-------------	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788.0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	判定区分 評価基準 (該当する項目に○を付けて下さい)				部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考
				該当部材 無し	未点検	判定区分 I	判定区分 II	判定区分 III	判定区分 IV				
15	鋼	床版※	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発 錆箇所が複数ある。	・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じてい る。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じて いる。				
16			亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし	・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑 わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状で あってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数 が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が 生じている疑いを否定できない塗膜われが生じてい る。	・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂 の原因や生じた範囲が容易に判断できる。				
17			ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が 少ない。(一群あたり本数の5%未満である。)		・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多 い。(一群あたり本数の5%以上である。) ・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。					
18			破断	部材無し	未点検	・損傷なし			・破断している。				
19	上部工	主桁※ (ゲルバー部、PC 定着部含む)	ひびわれ	部材無し	未点検	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m未満)。	・顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋 する可能性がある。				
20			剝離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剝離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剝離・鉄筋露出が発 生している。	主桁16,主 桁34	2.3.4		
21			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰 はほとんどなし)。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほ んどなし)	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つ らら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。					
22			定着部の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認めら れる。または、ケーブルの定着部に損傷が認めら れる。		・PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷があ る。または、ケーブルの定着部に著しい損傷があ る。	・耐力低下の他、第三者被害が想定される定着 部の異常がある。	PC定着部 01～34	5		
23		横桁※ (PC定着部含む) 縦桁	ひびわれ	部材無し	未点検	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	・顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋 する可能性がある。				
24			剝離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剝離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剝離・鉄筋露出が発 生している。				
25			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰 はほとんどなし)。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほ んどなし)	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つ らら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。					
26			定着部の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認めら れる。または、ケーブルの定着部に損傷が認めら れる。		・PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷があ る。または、ケーブルの定着部に著しい損傷があ る。	・耐力低下の他、第三者被害が想定される定着 部の異常がある。				
27		床版※ (張出部、PC定 着部含む)	剝離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剝離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剝離・鉄筋露出が発 生している。				
28			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰 はほとんどなし)。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほ んどなし)	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つ らら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。		床版01,床 版17	6.7		
29			抜け落ち	部材無し	未点検	・損傷なし			・コンクリート塊の抜け落ちがある。				
30			床版ひびわれ	部材無し	未点検	・ひびわれなし、もしくは、ひびわれが確認できな い。 ・[方向]一方向、[間隔]問わない、[幅]0.2mm以下 ・[方向]格子状、[間隔]0.5～0.2m、[幅]0.2mm以下 ・[方向]一方向または格子状、[間隔]問わない、 [幅]0.2mm以下	[漏水・遊離石灰が無い場合] ・[方向]一方向、[間隔]問わない、[幅]0.2mm以下 ・[方向]格子状、[間隔]0.5～0.2m、[幅]0.2mm以下 [漏水・遊離石灰が有る場合] ・[方向]一方向または格子状、[間隔]問わない、 [幅]0.2mm以下	[漏水・遊離石灰が無い場合]部分的な角落ち有 ・[方向]一方向、[間隔]問わない、[幅]0.2mm以上 ・[方向]格子状、[間隔]0.2mm以下、[幅]0.2mm以上 [漏水・遊離石灰が有る場合]部分的な角落ち有 ・[方向]一方向または格子状、[間隔]問わない、 [幅]0.2mm以上	・ある範囲で一体性を失っており、床版の抜け落 ちが懸念される。 ・顕著な漏水を伴う格子状のひびわれが密に発 生している、または、漏水を伴うひびわれがあり、 明らかなうきや剝離が確認される。				
31			定着部の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認めら れる。または、ケーブルの定着部に損傷が認めら れる。		・PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷があ る。または、ケーブルの定着部に著しい損傷があ る。	・耐力低下の他、第三者被害が想定される定着 部の異常がある。				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

[illegible]

健全性の診断	径間番号	2
--------	------	---

フリガナ 橋梁名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

03-青倉橋（第2径間）

上部工

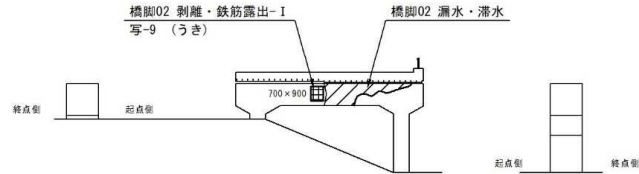
橋面工

損傷図の凡例

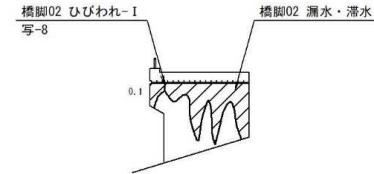
変状の種類	表 示	変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰		う き	
剥 離		漏 水		腐 食	
鉄筋露出		その他			

健全性の診断	部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
			判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
	上部構造	主桁	Ⅰ	Ⅰ			—		
		横桁	—				—		
		床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰	床版01,床版17	—		
	下部構造		Ⅰ	Ⅰ			—		
	支承部		Ⅱ	Ⅱ	支承部の機能障害,漏水・滞水	支承0102	—		
	その他		Ⅲ	Ⅲ	腐食、変形・欠損など	防護柵02	—		

P 2 橋脚
起点側



P 2 橋脚
終点側



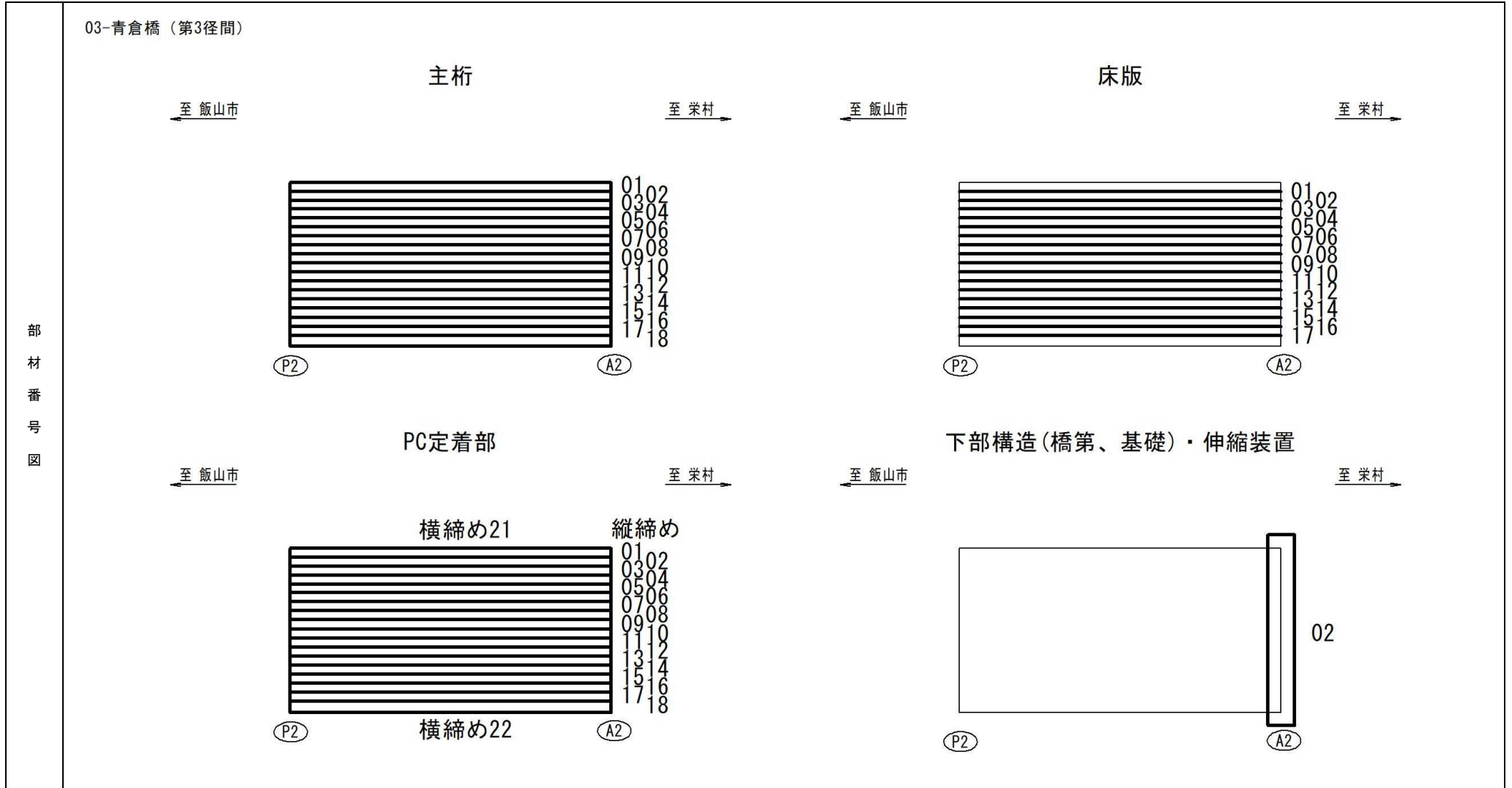
損傷図の凡例

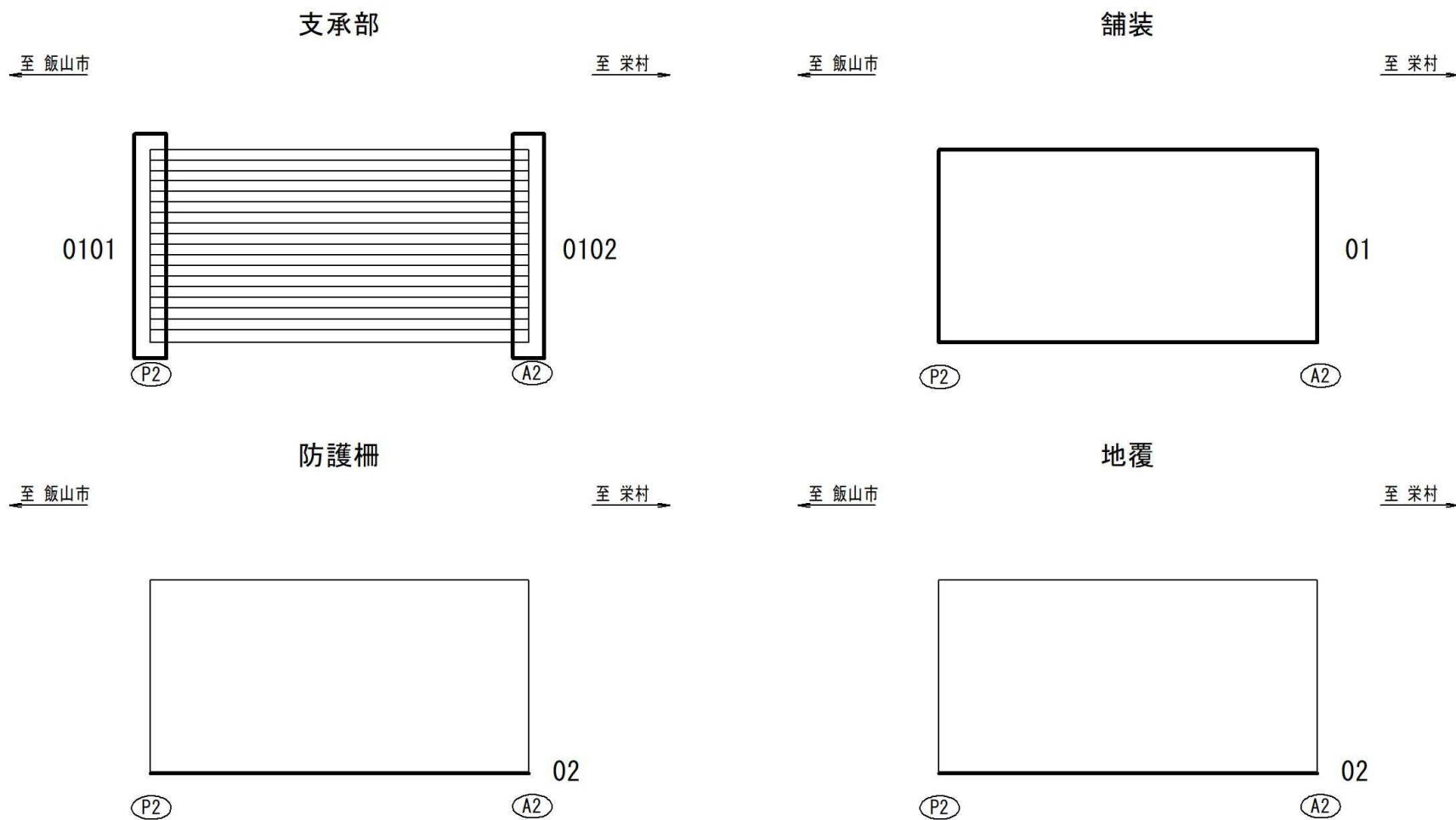
変状の種類	表 示	変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰		う き	
剥 離		漏 水		腐 食	
鉄筋露出		その他			

健全性の診断	部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
			判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
	上部構造	主桁	Ⅰ	Ⅰ			—		
		横桁	—				—		
		床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰	床版01,床版17	—		
	下部構造		Ⅰ	Ⅰ			—		
	支承部		Ⅱ	Ⅱ	支承部の機能障害,漏水・滞水	支承0102	—		
	その他		Ⅲ	Ⅲ	腐食、変形・欠損など	防護柵02	—		

部 材 番 号 図	径 間 番 号	3
-----------	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59' 19"		15 飯山	調査更新年月日	20201026
			経度	138° 33' 52"				





橋梁点検チェックシート			径 間 番 号	3
-------------	--	--	---------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号	管理者名	長野県	橋梁番号	4788.0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	判定区分 評価基準（該当する項目に○を付けて下さい）						部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考	
				該当部材 無し	未点検	判定区分Ⅰ	判定区分Ⅱ	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ							
1	路面・路上	舗装	舗装の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・舗装に軽微な損傷が発生している（ひびわれ幅5mm未満）。	・舗装が著しく損傷している（ひびわれ幅5mm以上）。 ・舗装に穴や異常なへこみがある。	・舗装表面に特異な損傷が見られるが、コンクリート床版の土砂化や鋼床版の亀裂は確認されない。	・舗装の陥没やセメント分の噴出痕が見られ、舗装直下の床版上面のコンクリートの土砂化の発生や、鋼床版の疲労亀裂による過度のたわみの発生が懸念される。							
2			伸縮装置	遊間の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・左右の遊間が端部に異なる、または遊間が直角方向にずれている。		・遊間が異常に広く伸縮継手の継の雲が完全に離れている。または、桁とバラベットあるいは、桁同士が接触している（接触した痕跡がある）。							
3				路面の凹凸	部材無し	未点検	・損傷なし ・横軸方向の凹凸が生じているが段差量は小さい（20mm未満）。		・横軸方向の凹凸が生じており段差量が大きい（20mm以上）。	・著しい凹凸があり、自転車やオートバイが転倒するなど第三者へ障害を及ぼす懸念がある。						
4			高欄・防護柵	腐食 変形・欠損など	部材無し	未点検	・損傷なし ・部材が局部的に腐食・変形している。または、その一部が欠損している。		・部材が局部的に著しく腐食・変形している。または、その一部が著しく欠損している。	・支柱部、レール部に著しい損傷があり、耐力の喪失につながる場合で第三者被害が想定される。						
5			地覆・中央分離帯	変形・欠損など	部材無し	未点検	・損傷なし ・部材が局部的に変形している。または、その一部が欠損している。		・部材が局部的に著しく変形している。または、その一部が著しく欠損している。	・著しい変形・欠損により、第三者被害が想定される。						
6			排水装置	土砂詰まり	部材無し	未点検	・損傷なし	・排水側に土砂詰まりがある。								
7	上部工	鋼	主桁※ （ゲルバー一部、格点部、コンクリート埋込部含む）	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発錆箇所が複数ある。	・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。 ・支点部などの応力集中部位、ゲルバー桁の受け梁、トラス横やアーチ横における斜材、支柱、吊材、弦材などの主部材に明らかな断面欠損や著しい板厚減少が生じている。						
8				亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし	・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。	・主桁のフランジからウェブに進展した明確な亀裂がある。 ・ゲルバー桁の受け梁に亀裂が発生している。 ・アーチ横やトラス横の支柱・吊材・弦材などに明らかな亀裂が発生している。 ・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。						
9				ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。（一群あたり本数の5%未満である。）		・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。（一群あたり本数の5%以上である。） ・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。							
10				破断	部材無し	未点検	・損傷なし			・破断している。						
11				横桁※ 縦桁 対傾構 横構	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発錆箇所が複数ある。 ・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じている。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じている。						
12		亀裂	部材無し		未点検	・損傷なし ・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状であってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が生じている疑いを否定できない塗膜われが生じている。	・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂の原因や生じた範囲が容易に判断できる。								
13		ゆるみ・脱落	部材無し		未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が少ない。（一群あたり本数の5%未満である。）	・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。（一群あたり本数の5%以上である。）	・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。								
14		破断	部材無し		未点検	・損傷なし		・破断している。								

橋梁点検チェックシート	径間番号	3
-------------	------	---

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号	管理者名	長野県	橋梁番号	4788.0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字壱	起点側	緯度		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	判定区分 評価基準 (該当する項目に○を付けて下さい)						部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考	
				該当部材 無し	未点検	判定区分Ⅰ	判定区分Ⅱ	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ							
15	鋼	床版※	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または拡がりのある発 錆箇所が複数ある。	・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じてい る。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じてい る。							
16			亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし	・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑 わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状で あってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数 が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が 生じている疑いを否定できない塗膜われが生じてい る。	・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂 の原因や生じた範囲が容易に判断できる。							
17			ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が 少ない。(一群あたり本数の5%未満である。)		・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い。 (一群あたり本数の5%以上である。) ・F11Tボルトによる遅れ破壊の懸念がある。								
18			破断	部材無し	未点検	・損傷なし			・破断している。							
19	上部工	主桁※ (ゲルバー部、PC 定着部含む)	ひびわれ	部材無し	未点検	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	・顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋 する可能性がある。							
20			剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剥離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発 生している。	主桁01	1					
21			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰 はほとんどなし)。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほ とんどなし)	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つ らら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。								
22			定着部の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認めら れる。または、ケーブルの定着部に損傷が認めら れる。		・PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷があ る。または、ケーブルの定着部に著しい損傷があ る。	・耐力低下の他、第三者被害が想定される定着 部の異常がある。							
23		横桁※ (PC定着部含む) 縦桁	ひびわれ	部材無し	未点検	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅小(RC:0.2mm未満、PC:0.1mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。 ・ひびわれ幅中(RC:0.3mm未満、PC:0.2mm未 満)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。 ・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔大(最小間隔0.5m以上)。	・ひびわれ幅大(RC:0.3mm以上、PC:0.2mm以 上)、間隔小(最小間隔0.5m未満)。	・顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋 する可能性がある。							
24			剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剥離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発 生している。							
25			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰 はほとんどなし)。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほ とんどなし)	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つ らら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。								
26			定着部の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認めら れる。または、ケーブルの定着部に損傷が認めら れる。		・PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷があ る。または、ケーブルの定着部に著しい損傷があ る。	・耐力低下の他、第三者被害が想定される定着 部の異常がある。							
27		床版※ (張出部、PC定 着部含む)	剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剥離のみが生じている。(鉄筋の露出は局部的)	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発 生している。							
28			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている(錆汁や遊離石灰 はほとんどなし)。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。(錆汁はほ とんどなし)	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰(例えば、つ らら状)が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。		床版17	2					
29			抜け落ち	部材無し	未点検	・損傷なし			・コンクリート塊の抜け落ちがある。							
30			床版ひびわれ	部材無し	未点検	・ひびわれなし、もしくは、ひびわれが確認でき ない。 ・[漏水・遊離石灰が無い場合] ・〔方向〕一方向〔間隔〕問わない〔幅〕0.2mm以下 ・〔方向〕格子状〔間隔〕0.5～0.2m〔幅〕0.2mm以下 ・[漏水・遊離石灰が有る場合] ・〔方向〕一方向または格子状〔間隔〕問わない、 〔幅〕0.2mm以下	・[漏水・遊離石灰が無い場合] ・〔方向〕一方向〔間隔〕問わない〔幅〕0.2mm以上 ・〔方向〕格子状〔間隔〕0.2mm以下〔幅〕0.2mm以上 ・[漏水・遊離石灰が有る場合] ・〔方向〕一方向または格子状〔間隔〕問わない、 〔幅〕0.2mm以上	・ある範囲で一休性を失っており、床版の抜け落 ちが懸念される。 ・顕著な漏水を伴う格子状のひびわれが密に発 生している。または、漏水を伴うひびわれがあり、 明らかなうきや剥離が確認される。								
31			定着部の異常	部材無し	未点検	・損傷なし ・PC鋼材の定着部のコンクリートに損傷が認めら れる。または、ケーブルの定着部に損傷が認めら れる。		・PC鋼材の定着部のコンクリートに著しい損傷があ る。または、ケーブルの定着部に著しい損傷があ る。	・耐力低下の他、第三者被害が想定される定着 部の異常がある。							

橋梁点検チェックシート

径間番号

3

フリガナ 橋 梁 名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

※印は「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」における最小限点検すべき部材を示す

点検項目				変状の種類	判定区分 評価基準（該当する項目に○を付けて下さい）						部材 番号	写真 番号	補修工法	概算 数量	備考
					該当部材 無し	未点検	判定区分Ⅰ		判定区分Ⅱ						
32	下部工	鋼	橋脚※	腐食	部材無し	未点検	・損傷なし ・局部的に錆が発生している。	・全体的に錆が生じている。または塩がりのある発 錆箇所が複数ある。	・局部的に著しい膨張または板厚減少が生じてい る。	・全体的に著しい膨張または板厚減少が生じて いる。					
33				亀裂	部材無し	未点検	・損傷なし	・断面急変部、溶接接合部などに鋼材の亀裂が疑 わしい塗膜われが確認できる。 ・亀裂が生じているものの、線状でないか、線状で あってもその長さが3mm未満と極めて短く、更に数 が少ない場合。	・線状の亀裂が生じている。または、直下に亀裂が 生じている疑いを否定できない塗膜われが生じてい る。	・亀裂の急激な進展が確認される。または、亀裂 の原因や生じた範囲が容易に判断できる。					
34				ゆるみ・脱落	部材無し	未点検	・損傷なし ・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が 少ない。（一群あたり本数の5%未満である。）		・ボルトのゆるみや脱落を生じているがその数が多い 。（一群あたり本数の5%以上である。） ・FITボルトによる遅れ破壊の懸念がある。						
35				破断	部材無し	未点検	・損傷なし			・破断している。					
36	コンクリート	橋台※ 橋脚※	ひびわれ	部材無し	未点検	・損傷なし ・ひびわれ幅小（RC：0.2mm未満、PC：0.1mm未 満）、間隔大（最小間隔0.5m以上）。	・ひびわれ幅小（RC：0.2mm未満、PC：0.1mm未 満）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。 ・ひびわれ幅中（RC：0.3mm未満、PC：0.2mm未 満）、間隔大（最小間隔0.5m以上）。 ・ひびわれ幅中（RC：0.3mm未満、PC：0.2mm未 満）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。 ・ひびわれ幅大（RC：0.3mm以上、PC：0.2mm以 上）、間隔大（最小間隔0.5m以上）。	・ひびわれ幅小（RC：0.2mm未満、PC：0.1mm未 満）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。 ・ひびわれ幅大（RC：0.3mm以上、PC：0.2mm以 上）、間隔小（最小間隔0.5m未満）。	・顕著なひびわれが生じており、進展すると落橋 する可能性がある。						
37			剥離・鉄筋露出	部材無し	未点検	・損傷なし ・剥離のみが生じている。（鉄筋の露出は局部的）	・鉄筋が露出しているが、腐食は軽微である。	・鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食または破 断している。	・第三者被害が想定される剥離・鉄筋露出が発 生している。						
38			漏水・遊離石灰	部材無し	未点検	・損傷なし	・ひびわれから漏水が生じている（錆汁や遊離石灰 はほとんどなし）。 ・ひびわれから遊離石灰が生じている。（錆汁はほ とんどなし）	・ひびわれから著しい漏水や遊離石灰（例えば、つ らら状）が生じている。または、漏水に著しい泥や錆 汁の混入が認められる。							
39	基礎※			沈下・移動・傾斜	部材無し	未点検	・損傷なし			・支点が沈下している。 ・下部工が移動・傾斜している。					
40				洗掘	部材無し	未点検	・損傷なし		・基礎が流水のため洗掘されている。	・基礎が流水のため著しく洗掘されている。					
41	支承部※			支承の機能障害	部材無し	未点検	・損傷なし	・腐食・土砂詰まり等、支承の機能が損なわれて いる。	・腐食・土砂詰まり等、支承の機能が著しく阻害さ れている。	・支承の沈下等により大きな路面段差や桁の脱 落等、危険な状態になる可能性がある。 ・支承の機能が喪失しており、落橋に至る可能性 がある。					
42				沓座モルタルの変形・欠損	部材無し	未点検	・損傷なし ・沓座モルタルの一部が欠損している。	・沓座モルタルが著しく欠損している。							
43				漏水・滲水	部材無し	未点検	・損傷なし	・伸縮装置、排水樹取付位置などから漏水し、支 承付近に滲水している。		支承0102	3,4,5,6				
44	全体			異常な音・振動 異常なたわみ	－	未点検	・損傷なし		・異常な音あるいは振動や揺れが確認できる。 ・主桁等に異常なたわみが確認できる。						
45	その他	落橋防止装置 補修・補強材 遮音施設 照明・標識装置 点検施設 添架物 袖擁壁 など	損傷を発見 した場合 ・損傷状況 ・損傷写真 を記録	[損傷状況]											
46				[損傷状況]											
47				[損傷状況]											
48				[損傷状況]											
49				[損傷状況]											
50				[損傷状況]											
51	[損傷状況]														

健全性の診断	径間番号	3
--------	------	---

フリガナ 橋梁名	アオクラバシ 4788 青倉橋	路線名	117 117号		管理者名	長野県	橋梁番号	4788_0
所在地	長野県下水内郡栄村大字北信字峯	起点側	緯度	36° 59′ 19″		15 飯山	点検年月日	20201026
			経度	138° 33′ 52″				

03-青倉橋（第3径間）

上部工

橋面工

至 飯山市

至 栄村

至 飯山市

至 栄村

主桁01 剥離・鉄筋露出-I
写-1 (表面劣化)

支承部0102 漏水・滞水-II
写-3, 4 (継手部からの漏水)

床版17 漏水・遊離石灰-II
写-2

支承部0102 変色・劣化
漏水・滞水-II
写-5, 6 (ゴム沓の層の分離)

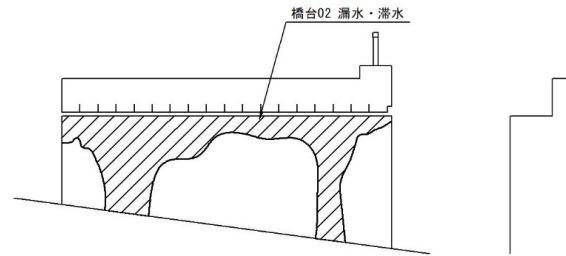
伸縮装置02 変色・劣化(ゴムの劣化)
漏水・滞水
変形・欠損(後打ちコンクリートの欠損)

損傷図の凡例

変状の種類	表 示	変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰		う き	
剥 離		漏 水		腐 食	
鉄筋露出		その他			

健全性の診断	部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
			判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
	上部構造	主桁	Ⅰ	Ⅰ			—		
		横桁	—				—		
		床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰	床版17	—		
	下部構造		Ⅰ	Ⅰ			—		
	支承部		Ⅱ	Ⅱ	漏水・滞水	支承0102	—		
	その他		Ⅰ	Ⅰ			—		

A 2 橋台



損傷図の凡例

変状の種類	表 示	変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰		う き	
剥 離		漏 水		腐 食	
鉄筋露出		その他			

健全性の診断	部材名		点検時の記録				応急措置後の記録		
			判定区分の最悪値 (チェックシート)	判定区分の診断 (技術者判断)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等がわかるように記載)	応急措置後の判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	応急措置内容	措置及び判定 実施年月日
	上部構造	主桁	Ⅰ	Ⅰ			—		
		横桁	—				—		
		床版	Ⅱ	Ⅱ	漏水・遊離石灰	床版17	—		
	下部構造		Ⅰ	Ⅰ			—		
	支承部		Ⅱ	Ⅱ	漏水・滞水	支承0102	—		
	その他		Ⅰ	Ⅰ			—		